



自治会の目下の最大課題は防犯

ゴールデンウィークも終わって、本格的な総会シーズンに突入する。会長を引き受けている地元自治会も、5月17日に総会を開催の予定だ▼当自治会は、新宿からJR中央線の快速で20分ほど、武蔵境駅で降り、そこから徒歩で15分強、バスだと5分程度。玉川上水と狭山―境緑道に挟まれた住宅地が管内で、1960年ごろから虫食いの宅地化がすすめられた。このため管内の道路のほとんどは私道で、道幅も狭いことから道路の多くは一方通行となっている▼既に住民は第二世代に代わり、その第二世代も高齢化がすすみつつある。この5、6年は高齢化で手放された建屋を更地にしたところに、分譲住宅2、3軒が建てられ、若い層の移入が増加している。若い層は自治会の加入率が低く、入っても共稼ぎが多いせいか活動参加は概して少ない▼時代とともに自治会に期待されるところも変化しつつある。7、8年前の活動重点は防火・防災であったが、能登半島地震の発生や東南海地震の発生懸念等から防災活動に重点はシフトしてきた。それが最近では防災以上に防犯対策への注力が避けられなくなってきている。これまで夜間パトロールを月1回ではあるが継続しており、街に人目があることが一番の安全対策と位置付けてきた。しかしながら、この1、2年、世間は物騒な事件が増えて治安が急速に悪化しており、夜間パトロールだけでは不十分と言わざるを得ない状況に。このためこの総会では、東京都と市の助成金を活用しての防犯カメラ設置を諮ることにしている▼自治会で一番頭が痛いのは、役員に手を上げてくれる人が少ないことだ。定年が延びたことも大きい。私が会長になって7年を経過。今回も辞めさせてもらえそうにない。

(土着菌)